

C21-1

公立学校施設の高齢者支援施設への転換・改修設計のモデル開発 - 多摩ニュータウン・HGN プロジェクト - The Model Development for Planning of Public School Conversion

上野 淳 (教授) 北山 和宏 (助教授) 角田 誠 (助教授)

倉斗 綾子 (COE リサーチフェロー) 金子 公亮 (修士課程) 坂本 充 (修士課程)

Jun UENO(Prof.), Kazuhiro KITAYAMA(Assoc.Prof.), Makoto TSUNODA(Assoc.Prof.),

Ryoko KURAKAZU(COE ResearchFellow), Noriaki KANEKO(Master Course), Mitsuru SAKAMOTO(Master Course)

ABSTRACT

The purpose of this series of studies is to develop the planning model of existing school buildings conversion to modernized school environment or other community facilities functions. This year we proposed some prototype models for conversion of closed school buildings into elderly housing for local elderly people who are increasing in this area year after year. We also indicated some model unit plans of care houses and housings for aged on this project.

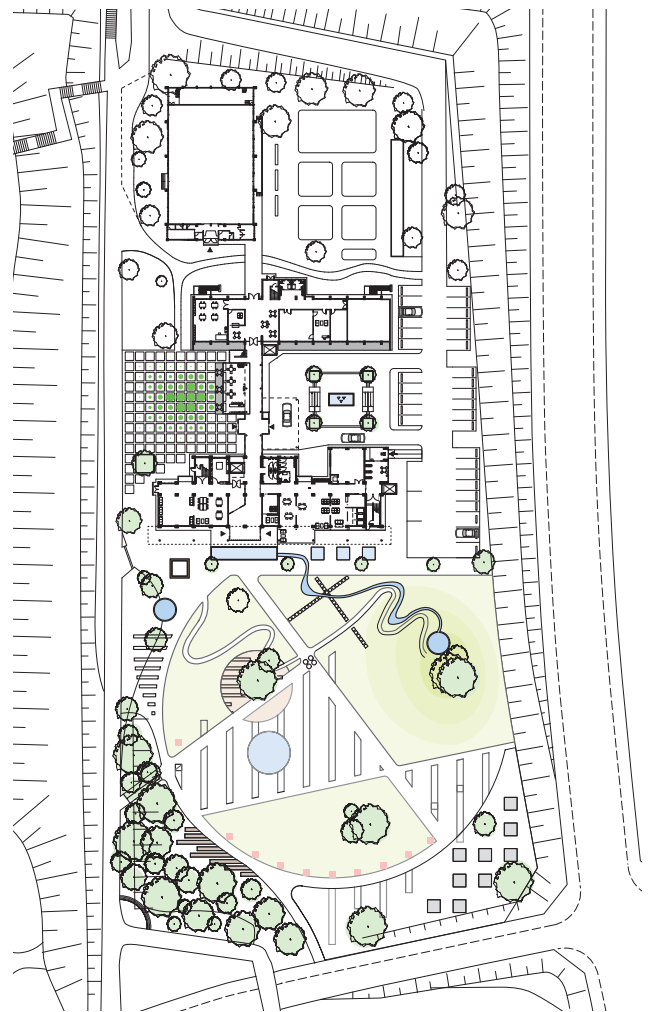
1. 目的と背景 現在、我が国の公立学校の建築ストックは約 5.5 万校、2 億 5 千万㎡に及ぶ。これらが少子化の影響によって、余裕教室の大量発生、学校統廃合による跡施設の出現、などの状況に見舞われ、その有効活用の手段が喫緊に求められている。

学校コンバージョンの可能性について、これまで、

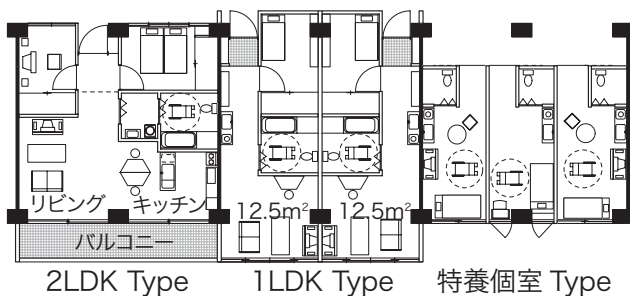
- 1) 現代的な学校施設としての再生コンバージョン、
 - 2) コミュニティー施設としてのフルコンバージョン、
- などの現実性の高い計画プロジェクトを提案してきた。05 年度では、この一環として、統廃合跡施設校舎を高齢者居住・支援施設へコンバージョンするモデルについて検討を行った。

2. 計画内容 学校跡施設の居住系施設へのコンバージョンには、1) 教室の単位平面又はその半割平面が 1 住戸平面 (概ね 3DK 程度) 又は単身者住戸 (1LDK) に適切なまとまりであること、2) 天井高 3m の既存断面が 2 重床によって水廻り配管等に適切なスペースを用意できること、などの現実的な利点を有する。本プロジェクトでは、多摩ニュータウン：東永山小学校の跡施設を

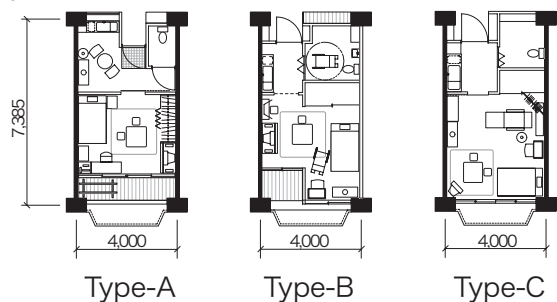
- A) 要支援高齢者居住施設としてのケアハウス
 - B) 自立高齢者のためのシルバーハウジング
- のそれぞれと、高齢者デイサービスセンターを中心としたコミュニティー施設を複合化した施設系へ再生する計画を提案した。



配置図

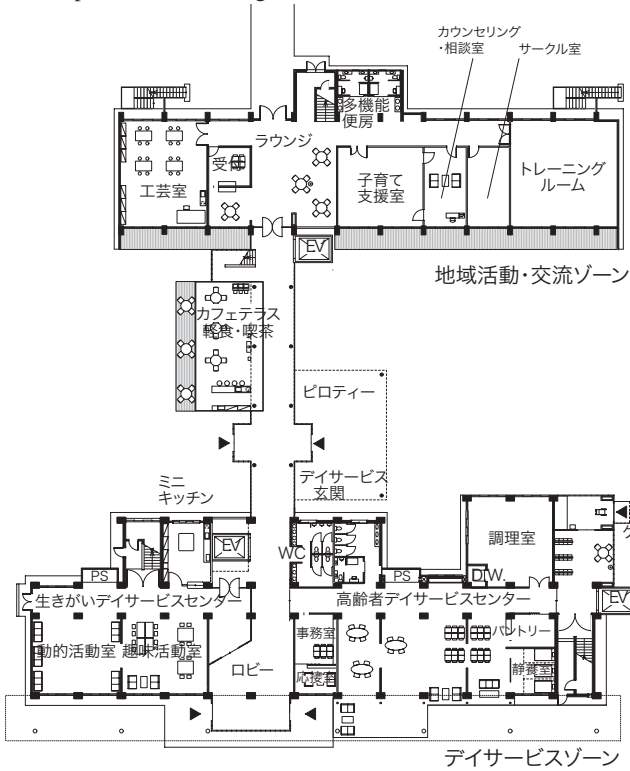


高齢者住宅平面詳細図 S=1:300

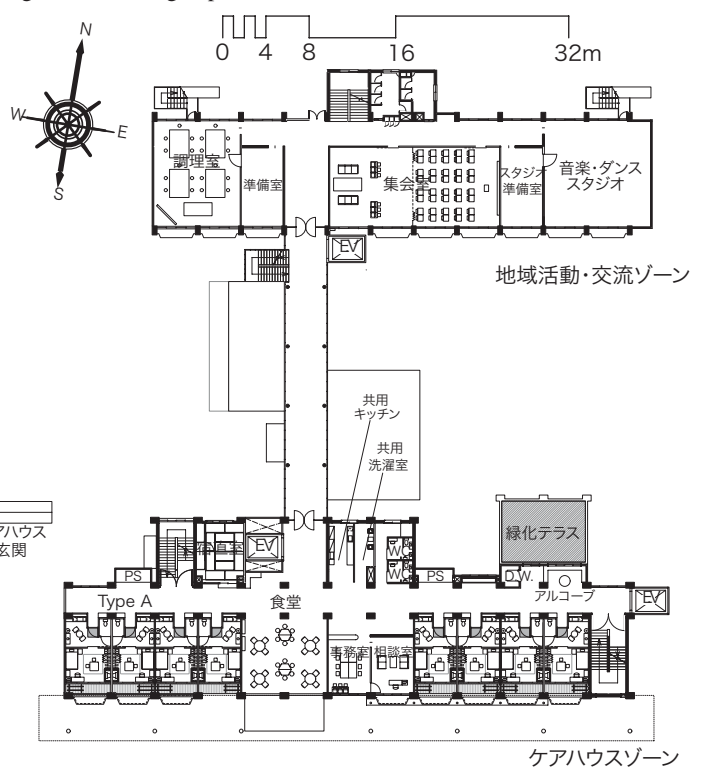


ケアハウス平面詳細図 S=1:300

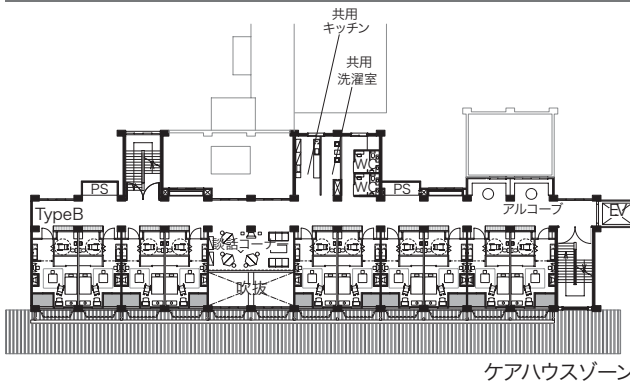
[教室単位空間の集合住宅・住戸へのコンバージョンの可能性]



1F Plan S=1:700

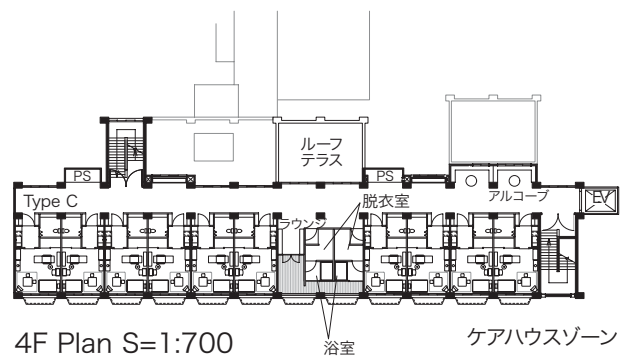


2F Plan S=1:700

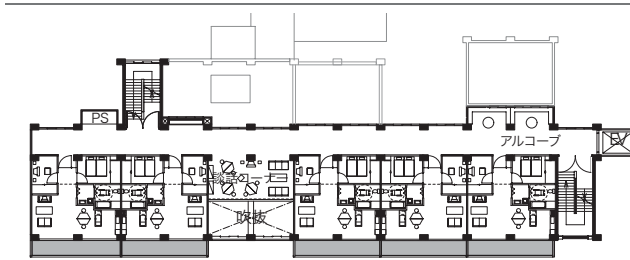


3F Plan S=1:700

ケアハウスコンバージョン平面図 S=1:700

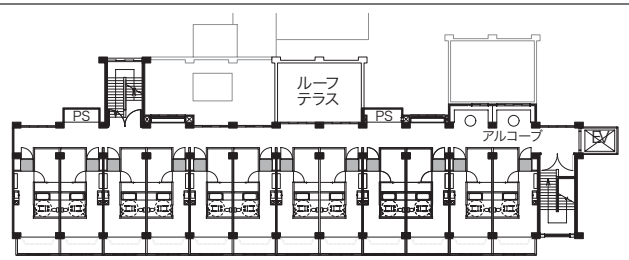


4F Plan S=1:700



3F Plan S=1:700

高齢者住宅コンバージョン平面図 S=1:700



4F Plan S=1:700



South Elevation S=1:600

旧・東永山小学校跡施設の高齢者住宅へのコンバージョン計画